

自然資源の宝庫「有峰」

北陸電力では、常願寺川有峰発電計画の約20年後、有峰貯水地の水をさらに有効利用するため、1978年（昭和53）から1981年（昭和56）7月にかけて新たにダム湖内に取水塔を設置して、新規左岸ルートに有峰第一（26万kW）・第二（12万kW）・第三（2万kW）発電所の計40万kWを増設する有峰再開発に取り組みました。有峰再開発の完成により、有峰ダムを利用した発電出力は68万2600kWとなりました。2025年（令和7）現在北陸電力が常願寺川水系に所有する水力発電所は28発電所、最大出力は82万4270kWに及び、その大部分が有峰ダムに貯えられた水を有効に利用して生まれています。

河川の水は、水力発電に資するだけでなく、大切な地域の資源です。常願寺川有峰発電計画が完成した1958年（昭和33）7月、北陸電力は和田川流域の約7000haの森林を富山県に移譲しました。その有峰森林文化公園一帯は、現在も豊かで恵まれた自然環境を維持しています。

傾斜の緩やかな高原盆地の有峰湖周辺にはブナ、ミズナラなどの貴重な天然林が広く生育しており、1995年（平成7）には多様な生態系を育む後世に残すべき「日本の水源の森百選」に選ばれました。有峰ダム以南の森林は林野庁の「水源かん養保安林」、以北は「土砂流出防備保安林」にも指定され、発電を終えた水は富山市の水道水の約7割をまかなう流杉浄水場の原水の一つとして、また、農業・工業用水として活用され、地域に暮らす人々の命と生活を支えています。



有峰ダム

